

下宅部遺跡出土品 都文化財に指定

漆塗り・杓子など58点

東村山市北西部地区の歴史遺産の目玉である下宅部遺跡からの出土品は



杓子柄

三、四千年前の縄文人の生活の様子が見られる貴重な品物ばかりです。地下の水の中に埋もれていたために有機物も腐らずそのままの姿で出土

したのです。

指定資料は縄文時代では日本唯一の発見となる漆の樹液の採取跡を持つ木材の他、飾り弓、しゃくし、装身具、土器などの漆塗り製品です。

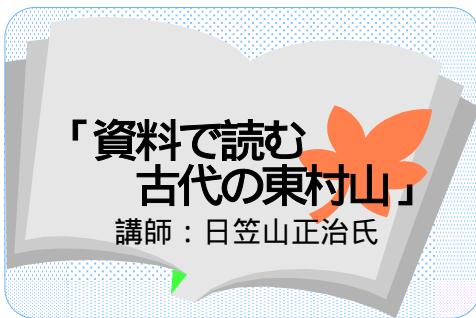
杓子：飯または汁などの食物をすくう器具。頭は小皿のようにつく柄につけられたもの。（広辞苑より）



飾り弓

講演

20年度の総会第二部に「資料で読む古代の東村山」



「資料で読む古代の東村山」
講師：日笠山正治氏

で行われた日笠山氏の講演資料で読む「古代の東村山」は市内の遺跡や関係する文書の資料を挙げて説明した。大変好評でした。以下に掲載しました。

は、遺物が湿土中であつて保存状況が良く、考古学の注目を集めています。

紀に造られた東山道武蔵路が縦断し、交通の要衝

から昭和9年に発見された瓦塔（歴史館にレブリカ）は、このころの出兵で戦死した人たちの供養

塔ではないでしょうか。9世紀、多摩郡と入間郡の境に旅行者の救護施設として悲田処設置を朝廷に要請しています。その跡地は秋津町説・多摩湖町説・所沢説などありますが徳蔵寺遺跡が有力のようです。



講演する日笠山正治氏

下宅部遺跡出土品展示

現在、ふるさと歴史館では「水の恵み 下宅部遺跡のすべて」と題し、遺跡の出土品を展示しています。6月21日（日）まで公開してありますので、皆さまの帰りにでも立ち寄ってご覧ください。

会費納入のお願い

平成21年度の会費納入をお願いいたします。最寄りの（関係の）役員さんにお渡しいただければありがたいです。どうしてもその機会がない場合は、「ふるさと歴史館」にお尋ねください。

電話 396-3800

活躍！ ボランティアガイド

平成20年は6月7、8、14、15日に、北山公園菖蒲まつり、正福寺、徳蔵寺で延べ60人のボランティアガイドが活動しました。

正福寺は千950人、徳蔵寺は378人、菖蒲園は数え切れないほどの来訪者にガイドしました。（市公園課調べで菖蒲まつり入園者7万5千人）。11月3日の地蔵まつりには12名のガイドが活躍しました。11月16

東村山駅西口地区再開発事業

再開発ビルは6月末
駅前広場は8月末完成予定



平成19年4月から建設中の再開発ビルは間もなく完成し、各テナント企業が内装工事を行われ営業は9月以降順次始められます。市の観光関連の係の窓

口もでき、観光マップ、チラシ等も備えられます。

駅前広場工事も始まっています。8月末には完成し9月から全面利用できる

